

第2回奈良県立高等学校の適正配置検討地域別協議会実施報告

1 実施日程・出席者等

地 域	開催日時	場 所	中学校関係出席者
北 部	1月29日(月) 14:30~16:00	大和郡山市 中央公民館	校 長 6名 PTA会長 4名
中部・西部	1月29日(月) 10:00~11:30	香 芝 市 中央公民館	校 長 8名 PTA会長 7名
南部・東部	1月30日(火) 14:30~16:00	高 取 町 中央公民館	校 長 8名 PTA会長 7名

2 主な意見

(1) 県立学校における教育内容について (特色化の推進について)

- グローバル化の中で、国際的なつながりを深めていくような学科を置き、学習を進めるとのことだが、子供たちが社会を担う時代には、今の職種がかなり減り、その中でどう生きるのかや、主体的に学ぶ力をどう身に付けるのかが求められる。子供たちが20年後、30年後に奈良県の主体となったときを想定してこれからの学びを検討してほしい。(中・西部：校長)
- ペーパーで示されている方向性はとてもいいと思う。中学校としては、生徒の個性、能力を発揮できたり、選択肢が増えるのはありがたい。新しい学科のカリキュラムが、どんな学習内容が学べて次につながるかの部分を充実させて欲しい。(中・西部：校長)
- この論点整理はビジョンが分かりにくいと感じるが、詳しく読むと「多様な人材育成」というところをビジョンとしているのだろうと感じる。これを多くの保護者に伝えるために、例えば、シンポジウムの開催や、積極的な広報により、学校のことに普段あまり関心のないという方々にも、「学校って最近こう変わってきているんだ」「奈良県はこういう学校づくりをしていくんだ」という意識をもってもらえるよう、全県的な議論に高めてほしい。(南・東部：PTA会長)
- それぞれの高等学校の特色化の更なる推進や、実学志向、地域を担う人材育成などは理解できるが、一方で、保護者の中には、子供に普通科を受けさせたいという傾向がある。特色化を進めて鹿児島とか宮崎のようになれば良いが、なかなか奈良県の中ではすぐに受け入れられるものではないと思う。結果的に、子供たちが、進学したい学校が少ないという気持ちを持ってしまうことにならないようにしたい。時間をかけながらそこへもって行くというのは良いと思う。(南・東部：校長)
- 中学校の保護者ではなく、高校生や高校生の保護者にアンケートをとるべきである。受検の際のニーズに合っているのかを判断する指標がない。(北部：PTA会長)
- 生徒の面接練習をしていると、はっきりと将来の展望をもっている生徒はあまりいない。進学後に大学進学か専門かを選択できるとよい。(北部：校長)
- 地域や産業界との連携について論点を深めていく必要がある。専門の学科を出るときに、学びを生かした就職先があるかや、どのように地域に生かせるかが分からないまま、15歳の子供たちが高校に入っていく(のが現状ではないか)。高校に入るときに、3年後にどう進むべき道があるかというのも、子供が理解して選択し、高校で学ぶ環境が必要である。(中・西部：PTA会長)
- 方針に更なる特色化という部分をもっていると思うが、更なる特色化よりは、いろいろな地域との関わりや職業に関わることを普通科に学びながら高校生の間に選択し得るような取組をしていった方がよい。(中・西部：PTA会長)
- 普通科に学びながら、(様々な)体験できるという仕組みを作って欲しい。中学3年生が受検ばかりになっている。これからの子供はその部分がもう少し軽減して、長いスパンで進路を考えていけるようにしたい。(中・西部：PTA会長)
- 以前に、普通科の高校で、1クラス分特色あるコースを設けて入試を実施したが、数年でその募集をやめた。おそらく課題があったのではないかと推察する。普通科の学校で特色を出すということは良いと思うが、選抜する段階でなく、例えば2年

生になってから、特色のあるコースに分かれていくことができるような形を考えていった方が良いと思う。(南・東部：校長)

- 子供たちの一人一人の個性というのは保護者が一番分かると思う。個性を引き出して、子供たちが入りたいと思える高校に、なるべくたくさん入れたら良いと思う。そして、このことに中学校もPTAも協力していくような全体の流れができれば良いと感じている。(南・東部：PTA会長)
- 林業の会社をやっていて、これからは良い人材を確保して、育てて、もっと大きくしたいと思っている。ただ、今の子供たちから、会社に行って習うという気持ち、僕はこれをやりたいんだという熱い気持ちを感じ取りにくいところがある。社会の即戦力となる子供たちを育ててほしい。(南・東部：PTA会長)
- 高校で園芸を学んだ卒業生が「バスガイドになります」と誇らしげに語ってくれた。本人にとって、この高校選択はどうだったんだろうなという思いがある。実学はいいが、(この例のように)それが(全て)就職につながるわけではない。(南・東部：校長)

(学科構成について)

- 今後生徒数が少なくなっていくことを考えると、当然学校は統合されていくようになる。そこで、総合学科を設置することの必要性はあるのではと感じた。この論点整理では「(学校数が)少ない地域において」としているが、少ない地域でなくてもその方向性は必要になってくる。「することも考える」ではなく、より積極的な考え方をもたないといけない。今後、生徒が少なくなる中で、ニーズに対して応えられるような学科、あるいは子供たちの興味・関心を引くことができるコースを作るとなれば、そういう視点というのは極めて必要と感じた。(南・東部：校長)
- 総合学科を設置して、多様なコース選択が可能になるシステムが必要である。(北部：校長)
- 総合学科を南部の学校でできないか。地域の学校に入り、総合的に学習をやりながら、林業もあり、農業もあり、進学にも力を入れるというようなことをやっていくのはどうか。総合的な学科で1年生は全てのことを学びつつ、行きたい学科を選ぶ。進学については大学との連携により、地域の枠を増やし、専門的な内容を一生懸命勉強し、専門学校・大学・どこかの師匠につく道をとというような特色あることを考えないと、南部の学校はなくなってしまうのではないか。(中・西部：校長)
- 設備等予算の問題もあるが、普通科しかない高校に職業学科を設置すると、子供の選択肢が広がる。(北部：PTA会長)
- 地理的なことを考えると、南部の学校で選択肢が広がるカリキュラムを備えた学校が必要。(北部：校長)
- 廃校により利用されていない県立学校跡地の問題もある。学校数を減らし、施設を設計し直して、普通科の大きな枠組みの中で、専門的な学科を学べるような、総合学科のような学科があればよい。(北部：PTA会長)
- 職業に関する専門学科のところで、林業はどうなっていくのか。以前は林業は専門的な学科があった中で、奈良県で膨大な森林資源がありながら、将来どうなっていくのか、大きな問題だと思う。例えば自然の生態系の内容と組み合わせをしながら、また専攻科など、さらに専門的な知識を積み上げながら、奈良県の次代の林業を担えるような子供たちの育成をと思う。子供たちの中にも、祖父が山の仕事をしてたから、山で仕事をしたい、どこで勉強したらいいのかという話もある。専門学科を考えていく上で、農業とともに林業もクローズアップして捉えてほしい。(南・東部：校長)
- 人口は少ないが南部地域に特色ある学校をというなら、吉野の林業のように産業に根ざしたものや、駅から近い特色ある進学校などを考えるのもどうか。(中・西部：PTA会長)
- 例えば建築学科に大学につながるような専門的なコースを作る中で、進学につなげることも考えられる。(中・西部：PTA会長)
- 福祉科について、あこがれや、人に勧められて進学したものの、実習等でなかなかうまくいかない生徒もいる。県立高校として福祉科を置かなければいけないかどうかも疑問。高校生の間にもっといろいろな選択肢ができる、幅を広げる取組をしてほしい。(中・西部：PTA会長)
- 教員のなり手が非常に少なくなっていると感じる。子供らがつ、教員になりたいという夢をかなえていく道筋をつけて、教員を増やして欲しい。(中・西部：校長)
- 教員を育てるプログラムをこれから作るということだが、工業や農業等についても産業界と連携して、ここで学ばばこういうところへ行けるよというプログラムを

作って欲しい。(中・西部：PTA会長)

- 私は特色のある学科へ行ったが、普通科と比較して専門学科は中退率が多いというイメージがある。入学したら(その学科で)ずっと行かないといけないという思いをもって入学し、1年生の間に中退した友達がいた。(中・西部：PTA会長)

(その他)

- 高校入学後の方向転換ができるようなシステムづくりをお願いしたい。また、不登校の生徒を受け入れるカリキュラムを組める仕組みをつくっていただきたい。(北部：校長)
- 学力はあるが、コミュニケーションが取りにくく、高校で不登校になるようなケースもある。途中での進路変更が可能になるような方策をお願いしたい。発達障害など、個々のケースに対応できる、受検や進学後のシステムを作っていただきたい。不登校の居場所づくりに県立高校の跡地を活用することも考えられる。(北部：PTA会長)
- 発達障害の生徒への対応として、定時制で5年かけてゆっくり学べるといったコース設置や支援体制はとれないか。(北部：PTA会長)
- 私立のように、不登校、発達障害など、個別の状況に即したカリキュラムで対応できるようにしていただきたい。(北部：校長)
- 主体的、対話的な学びが求められている現在、1クラス40名では指導が厳しい。(北部：校長)
- 中学校にコミュニティスクールをという話が出て、PTAの次にCがつく流れになっているが、高校もそうなってくると、今までの高校のデザインが変わってくる可能性がある。オープンスクールの機会を広げ幅広く体験できるようにし、新しいコースについて等、いろいろなことを発信してもらいたい。(中・西部：PTA会長)
- 普通科でどのような体験ができるのか、私立のオープンキャンパスと比べると見えにくい部分がある。(中・西部：PTA会長)
- 学び直しという場所を、定時制と限定してしまうのがいいのか。学び直しができる高校に、実学としての名前がつくと、選択しにくくなるのではないか。総合学科のような形で、基礎数学とか、基礎国語というような科目を履修しながら、ゆっくりと学び直し、自分の実力を上げていくことを求めている子供たちもいるのでは。(南・東部：校長)
- 学び直しに関して、将来を見失ってしまっているような子供に受け皿となる学校がほしい。(南・東部：PTA会長)
- 県立の中高一貫校を設置した場合、地域との連携が難しいのではと感じる。(北部：校長)

(2) 県立学校の配置について

(各地域の配置について)

- 北部は、南部に比べて地域内に進学する生徒が少ない。それに比べて南部は120%となっている。通学時間なども考えながら再編を検討すべき。(北部：校長)
- 南部は通学の便で地域から出にくいので、特色化を進めて、多様な選択ができる学校を設置すべきである。東部は学校数が少ない。仮に削減の対象となるとすると、通学の面から、榛生昇陽の普通科を充実させるのがよい。北部は選択肢が多いが、南部東部は20年先、30年先を見据えた計画が必要。(北部：校長)
- 親としては通学時間も考慮した適正配置を考えて欲しい。遠くてもいいから、アクセスのいいところを、県民の皆さんの声も聞いて決めて欲しい。(中・西部：PTA会長)
- 資料1-7「各地域別の進学先地域の状況」などを見ると、近いところに進学したいというお子さんがいることがここから読み取れる。また遠距離通学を避けていくとなると、どうしても全県的に散らばらざるを得なくなる。学級の規模を減らすと弊害もある。どこかで折り合いを付けていかなければならないと思う。(南・東部：校長)
- 北部に人口が多く、学校数が多いのは当然と思うが、特色のある学校に行きたい科があれば、通学に時間がかってもいいのでは。(中・西部：PTA会長)

(学校の統合について)

- 論点整理のはじめに前回の統合によって10校減ったと書かれているのは、保護者には不安を与えるのではないか。今後の世の中を予想して、長いスパンで学校の

- 在り方を検討していくという説明の方がいいのではないか。(北部：校長)
- 高校の数はこれ以上減らして欲しくないというのが保護者の思い。小中学校が小規模になってきているため、大規模な高校に適応できない子供もいる。学校数はこのままで規模を小さくしてほしい。(北部：PTA会長)
 - 統合で母校がなくなるとするのは寂しいと思っている人はたくさんいると思う。子供たちにはそういう思いはあまりさせたくない。安易に高校を減らしていくとか、名前を変えるとかせずに、規模を縮小していく形で、学校を残してほしい。(南・東部：PTA会長)
 - 統合再編せずに、学級数を減らしてもらいたいというのは普通の市民感情と考える。その意味でも、前回のような統合ではなく、統合再編によりある程度の規模を維持しながら施設も充実させ、今までと違う学校を設置する必要がある。(北部：校長)
 - 統廃合により学校規模が縮小すると、地域の活性化とどう整合性がとれるのか。県全体の活性化につなげるということのほうがいいと思う。(中・西部：校長)
 - 伝統校とは一体何か。適正化を実施すると、学校の名前が消えていく。総合学科などと学科が変わっても、10年後も20年後も〇〇学校は健在であると、保護者も納得すると思う。伝統校というのは名門校という意味合いではなくて、ずっとある学校だと思う。(南・東部：校長)

(その他)

- 公立の進学する生徒の割合が64.7%であることに驚いた。10人に6、7人しか公立に入れないというのは、ちょっとかわいそうかなと思う。私立に配慮しているのか。高校に進む子供にとったら、それは大人の事情にしか見えない。(南・東部：PTA会長)
- 私立と公立との比率を、そろそろ見直す時期がきてるのではないかという声を聞く。私立と公立との費用負担の差というのは格段にある。(南・東部：PTA会長)
- 教育の無償化が導入されると、子供たちの進学方法が変わるのではないか。大阪府では私立への進学率が高くなり、公立が減って来ており、生徒を集めるために大変苦勞をされているという状況を、見直し10年の中で考慮し、論議されているのか懸念する。(中・西部：PTA会長)
- 私立に進学させる余裕がないという家庭が、以前に比べてかなり増えてきているような気がする。(南・東部：PTA会長)

(3) 適正配置計画について

- 10年毎に再編、見直しをするということだが、自分が行きたいと思っていた学科が違うところに設置されるというのは混乱しないのか、不安に思う。(中・西部：PTA会長)
- 学校の統合があるのかどうか、いつ具体例がでてくるのかが保護者が最も気になるところである。(北部：PTA会長)
- 再編等の発表について、選択肢が広がる内容は当年度でもよいが、選択肢が狭まる内容は、1年生から継続して進路指導・キャリア教育をしていく上で、せめて当該の子供たちが1年生のときにして欲しい。唐突に発表されると、現場の教員は大変戸惑うし、不信感にもつながる。計画発表に当たっては、どのように子供や保護者に知らせていくのか見通しも示してほしい。(中・西部：校長)
- 地域創生であったり、多様な人材育成であったり、地域とより結びついた高校の再編という形で、非常に魅力的な統合・再編と考えるが、現実問題として、どこまで何ができるのか。それをこの6月に発表する際に、ぼんやりとして見えにくい形になってしまわないか。(南・東部：校長)
- 普通科のコースについて、目指していたコースの内容が突然変わってしまう中で、どの高校どの大学という進路のイメージを描いていた生徒が戸惑うという現状があった。(中・西部：校長)

(4) 入学者選抜について

- 進路指導は、本当に行きたい学校を受検するようになってきたと思う。特色選抜は受検機会を増やすとともに、子供たちが本当に頑張りたい高校を見付けさせてくれたのかとも思う。統合や新しい学科ができるかもしれないが、何を目指して行くのか等、二階堂高校の総合学科のときに分かりやすかったので、そのように情報をいただきたい。(中・西部：校長)

- 特色選抜を単なる受検機会ととらえている生徒もいるので倍率が上がり、本当に行きたい子がいけないという状況もある。公立でないで高校に進学できない子もいるので、行きたいコースで勉強ができるようになってほしい。(北部：PTA会長)
- 特色選抜を受検する生徒は、割合早い時期から自分はどこへ行きたいという思いをもって思うように思う。早く受検が終わるからという理由も確かにあると思うが、それよりも自分が学びたいからこの学科を受けているのではないか。先生方にもそのような指導をしていただいている。ただ、特色選抜に多くの生徒が受けるので、不合格の場合に次にどうするかや、生徒の心の揺れへの対応に、学校は苦勞をされているのではないか。(中・西部：校長)
- 他の保護者から、なぜ特色選抜は一般選抜と受検日が違うのかと聞かれた。同じ県立高校に行くんだから、同じ日にしたらいいと思う。そうなったら、早く決めたいから特色選抜を受けていた子供も、普通科を選ぶかもしれない。(中・西部：PTA会長)
- 特色選抜の日程が異なるのは、受検機会を増やすという意味があったと記憶している。特色選抜が先というのはいろいろな要因がある。中学校では様々な将来の職業や仕事を目指して、キャリア教育に力をいれながら指導するが、15歳の子供たちに将来の具体的な像はなかなか描けない。懇談をしながら、今の段階では普通科に行きましょうということも多いと思う。兄や姉が行っている学校について聞いて、そちらへ進むというケースも多い。(中・西部：校長)
- 子供たちと高校受検を振り返り話をすると、特色選抜の意味は何なのだろうという話になった。早く受かったらラッキーという安易な考えの子供もおり、また、落ちることもあると考えた上で受検しても、実際に落ちるとかなり落ち込んだ。行きたい科があっても倍率が高いので他の科を受ける子供がいるということも聞いた。(中・西部：PTA会長)
- 制度に翻弄されているとしか思えない。実際にどういう気持ちで受検を乗り越えて高校に進学したのか、どう思って高校生活を送っているのかは重要。多くの子供が特色選抜を受ける中で、一般選抜まで耐えられないのではないかと悩んだり、まわりが合格した中で、ぴりぴりした状態で過ごさなければいけない。一番大事なことは、子供中心で考えるべきこと。(中・西部：PTA会長)
- 特色選抜を先に実施するのは良いと思うが、本当に入りたい、熱心に勉強をしたいという子供が入れないかもしれない。2回、3回という機会を与えてあげるのはいいかなと思うが、入学後イメージと違うので1学期の間に3人も4人も辞めた。辞める数が普通科よりも多いと思うので、学び直しの機会や次の道の選択幅、途中でのコース選択等が必要。中退の数を減らす取組をして欲しい。(中・西部：PTA会長)
- 中学生の受検は複雑になっており、「特色」「一般」などを理解するのに時間がかかる。中学から高校に行くのに高いハードルを設定する必要があるのか。学びたい子供が学びたいところへ行ける簡単な仕組みで良いのではないか。(中・西部：PTA会長)
- 本校では特色選抜を受ける生徒が多く、普通科の希望が増えていることには疑問。何をしたいか分からないから、とりあえず普通科という生徒が結構多いのではないか。(中・西部：校長)

(5) 施設・設備について

- 施設・設備に関しては、校舎の耐震を整えて、何より子供たちの安心・安全の確保のために、施策を進めて欲しい。(中・西部：校長)
- 耐震化の設計をした後に、統合が決まって無駄になるようなことは避けなければいけない。(北部：PTA会長)
- 特色化、適正化を進める上では、施設整備のことも考えないといけない。(北部：PTA会長)
- 畝傍寮の整備もお願いしたい。また、地域を限定せず入寮できるようにしたら良いのではないか。保護者としては環境の良いところで生活させてあげたいと思うし、もっと多くの方が利用したら良いとも思う。(南・東部：PTA会長)